

# きほく通信

第46号

2014年  
8月30日  
発行

難病  
患者家族会  
きほく

【会長】神森和子

紀の川市中三谷

【相談室】

0736(77)5161  
〒649-6612 紀の川市北涌371  
森田方 TEL 0736(75)4413

## パブリックに意見を提出

今年の8月は不順な気候で、気象庁から「平成26年8月豪雨」と名付けられるほど、広島をはじめ各地で大きな被害が出ています。

皆さまにはお変わりございませんでしょうか？被害などありませんでしたでしょうか？

さて難病新法の成立とともに第一段の指定難病110疾病（今までは56疾病）が公表されています。

来年に向けて第二段の審議が今後行われることとなっています。

これに関して、よりよい内容の法律とするため、私たちが加盟する上部団体のJPA（日本難病・疾病団体協議会）が8月27日締切のパブリックコメント「難病の患者に対する医療等に関する法律施行規則（案）」への意見を提出しました。以下にその要旨を記載します。

### （1）指定難病等の要件

○単に患者数要件だけで除外することはしない旨を明示すること。

○患者を救うという見地から、基準については幅広くとらえること。

○合併症や副作用など、治療に付随して発生する疾病に対する治療も医師の判断で広くとらえて認めるべきと考える。

（抜粋・要約）

### （2）指定特定医療に係る負担上限月額の設定

○年度途中に所得状況が変化した場合などは、申出により所得割の変更を可能にするなど、実情に応じた対応ができるようにすること。

### （3）特定医療費の支給

○所得状況は、必要最小限の個人情報による確認とし、家族状況を調査するなどのことがないよう配慮すること。

### （4）指定医

○診療科にかかわらず難病患者を診ることのできる医師が広く難病指定医の資格をとれるようにすること。

### （5）支給認定等

○「医療受給者証」に記載する指定医療機関以外の指定医療機関でも、特定医療が受けられることを明示すること。

### （6）指定医療機関

○難病患者のかかる医療機関はすべて指定医療機関とし、指定医療機関でないために、医療費助成が受けられないということのないようにすること。

紀の川市難病患者家族会きほくとしては、これらの動きについても、注視していきたいと思えます。

## きほくからご案内

### 1. 対県要望会

日時：10月8日（水）

PM1:30～3:30

場所：県庁北別館2階

### 2. 人権フェスタ2014

日時：11月15日（土）

10:00～16:00

場所：ビッグホエール  
和歌山市手平

### ■岩出保健所から医療講演会のお知らせ

「ストレスマネジメント～心の健康を保つため～」

講師 奈良医大緩和ケアセンター

厚坊 浩史 先生

日時：9月18日（木）13:30～15:30

場所：岩出保健所1階会議室

（9月11日までに申し込み）

### ■県難病・子ども保健相談支援センターからご案内

「就労・年金・療養相談会」

日時：10月22日（水）13:30～16:30

場所：和歌山市中央コミュニティセンター1階  
和歌山市三沢町1丁目（073-402-2678）

（申込み 073-445-0520 担当 富士）

## 「くすりの情報 Q & A55」より

### 薬の飲み方について

**Q** 水なしでくすりをのんだり、水以外のものでのんだりしても大丈夫ですか。

**A** のみ薬は水でのむとのみやすく、また、水に溶けることで吸収が良くなり、効果を発揮しやすいようにできています。それ以外の方法でのむと、思わぬ事故につながることもあるので注意が必要です。

### ◇ 解説 ◇

一般的なのみ薬は、コップ1杯程度の水、または白湯（水をいったん沸騰（ふつとう）させた後、ぬるめに冷（さ）ましたもの）でのむことを前提にしてつくられています。したがって、水なしでのんだり、少量の水でのんだりすると、くすりが十分に溶けないので、吸収が低下して効果が発揮できないことがあります。

またカプセル剤の場合は、水なしでのむとのどや食道にくっつき、そこで溶け出したくすりの成分が粘膜（ねんまく）を傷（いた）めることがあります。こうした事故を防ぐためにも、いつも多めの水でのむ習慣をつけておくことが大切です。

■では、コーラやジュース、牛乳などでくすりを飲む場合はどうでしょうか。

コーラのような炭酸飲料は、くすりの吸収に影響するといわれ、しかも散剤などは、炭酸の泡（あわ）と

一緒にのみ込みにくくなったり、十分にのみ込めなくなりやすいのでやめましょう。

またコーラには、コーヒーや紅茶などと同様にカフェインが含まれています。カフェインには、眠気覚ましなどの興奮作用や尿の排出を促（うなが）す利尿作用を持っていて、そのため、鎮静（ちんせい）薬では効果が弱まる場合があります。また、痛風治療薬の中にはカフェインの分解を抑（おさ）えて興奮作用が強く出て頭痛や動悸（どうき）（どうき）を起こすことがあります。最近では、カフェインが含まれる飲料が増えてきているので、毎日くすりを服用している方は飲料の成分に注意してください。

ジュースでは、グレープフルーツジュースで血圧降下薬（カルシウム拮抗薬（きっこうやく）など）の分解が抑えられ、作用が強くなってしまふこともあります。グレープフルーツジュースに含まれるフラノクマリンが、小腸にあるくすりを代謝する酵素の働きを弱めてしまふことが原因です。この影響は2、3日続く場合もありますので注意してください。なお、カルシウム拮抗薬は、さまざまな種類があり、グレープフルーツの影響を受けにくいものもありますので、医師や薬剤師に相談してみるとよいでしょう。

このほか、柑橘（かんきつ）類のジュースをたくさん飲むと、尿がアルカリ性に変わり、くすりによっては効き目が強くなったり弱くなったりします。ジュースでくすりをのむことも避けましょう。

■くすりとの相性で、特に問題となるのはアルコールです。

アルコールは肝臓で分解されます。多くのくすりも

肝臓で分解されます。このため、くすりとアルコールを一緒にとると、くすりの分解が遅れて、通常より高い血中濃度となり、結果として強い作用を及ぼすことがあります。さらに、アルコールを毎日飲み続けるとアルコールを分解する酵素が増えて、くすりも分解されやすくなり、くすりの効果が低下することもあります。

精神安定薬や睡眠薬（すいみんやく）のような精神を鎮（しず）める作用をもつ薬は、アルコールにも同じような作用があるため一緒にのむと極端に作用が強まる場合があります。また、糖尿病のくすりでは、低血糖を起こしやすくなります。

くすりは、絶対にアルコールと一緒にのまないでください。くすりは水や白湯でのむように心がけましょう。

